

校長会報

第137号

宇都宮市立戸祭小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
高橋正彦

印刷所
(有)正栄社印刷所

分化から総合へ 新しい学校モデルの創造

栃木県小学校長会長 高橋 正彦



今年は何年。大きく変化する年であると言われている。国際情勢や政治・経済・産業にもその兆しが現れています。言わずもがな、学校教育では新学習指導要領が告示され、各学校は新教育課程への移行を含め、全面実施に向けての準備を着実に進めなければならない初年にあたります。

新学習指導要領では、社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び、カリキュラムマネジメント、英語や道徳の教科化など、キーワードが次々に並び、特に小学校教育には大きな変革が求められています。学校経営においても、子どもを取り巻く環境が複雑化・困難化・多様化し、専門スタッフとの連携協力によるチーム学校の取組やコミュニティスクールなど地域とともにある学校づくりの推進など、学校の機能にも変化が求められています。また、本県小学校教育の

課題として学力向上があります。各学校は真摯にこの課題に向き合い、検証改善サイクルを確立し、授業改善や少人数指導の充実を図るとともに、家庭と連携し学習規律や学習習慣を身に付けさせるなど、実情に応じた手立てを講じ、子どもたちの学力向上を図らなければなりません。

その他、子どもと向き合う時間の確保や少人数学級によるきめ細かな指導の1層の充実等、教育環境の整備も継続して課題となっています。学ぶ目的・学び方・学ぶ内容の変化とともに、学校機能やそれを支える教職員の資質、勤務の在り方も変化しようとしています。

そして、「何ができるようになるか」新学習指導要領で問われているこの力を育てるため、新しい学校モデルの創造が必要です。それは、各教科等によって様々な分化している知識や技能を、子どもが自ら総合し「実力」として発揮できるようにする学校です。

そのためには、子ども・保護者と教職員に限られた関係性を地域と目標や方針、具体策を共有し、開かれた関係性の中で地域の力を総合できる学校にすることが重要です。新たに何かを開発するのではなく、地域の多様性に目を向け、その強みを生かし、よりよい教育活動や環境を創り出す活力ある学校づくりの営みとも言えるものです。

微力ですが、各地区・各学校の実践に学びながら、各学校が一層活力ある学校づくりを推進できるように校長会の運営に力を尽くしてまいりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

第七十回
栃木県小学校長会総会

平成二十九年栃木県小学校長会が、五月十八日に県教育会館で、県教育長の宇田貞夫様を始め多くのご来賓をお招きして開催されました。

高橋正彦会長は挨拶の中で、「チーム学校の取り組みやコミュニティスクールなど学校の機能にも変化が求められている。本県小学校の課題として、学力向上があり、各学校は真摯に向き合い検証改善のサイクルを確立し、授業改善や少人数指導の充実を図るとともに、家庭と連絡を密にし、学習技術や学習習慣を身に付けさせるなど、学校の実情に応じ手立てを講じ、子ども達の学力向上を図り、児童に自信と意欲を持たせなければなりません。」と述べられました。

その後、事業報告や決算報告、今年度の事業案や予算案が審議され、承認されました。

研修会では、宇都宮大学大学院教育学研究科准教授の原田浩司先生から、「特別支援教育の課題と校長の役割」と題して講演があり、すべては子どもたちの学びのため、実態を早く把握し対処することが大切など、示唆に富んだお話を聴くことができました。

平成二十九年
活動目標

本校長会は、新たな時代の要請に応える教育の実現を目指し、次の基本目標を掲げ、知・徳・体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を一層推進する。

今後、積極的に情報を収集し、ネットワークを駆使して学校改善のための研修に努め、学校経営及び日常の教育活動を通して積極的に研究・実践を積み重ねていく。

《基本目標》

新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進

《具体目標》

- 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識や能力の高揚
- 七 関係諸機関との連携と組織の強化

地区会長一覽

宇都宮・上三川 福田 順一

宇都宮市立錦小学校
新学習指導要領が告示されました。地区内七十六校の校長が、やるべきことをしっかりと見据え、先見性をもって学校経営に邁進できる校長会を目指します。

上都賀

池田 輝美
日光市立今市第三小学校

鹿沼市校長会と日光市校長会のそれぞれのよさを連携・交流・共有し合いながら、チーム上都賀として学校改善に尽力できる校長会を目指します。

芳賀

小瀧 一男
芳賀町立芳賀東小学校

一市四町三十二名の会員が、積極的な研修や連携を深め、会員相互の資質の向上を図り、今日的教育課題の解決に向け意欲的に取り組む校長会を目指します。

下都賀

笹沼 宏己
野木町立友沼小学校

壬生町と野木町、計十三名の会員が連携を図りながら、互いの町のよさを生かして研修に取り組み、今日

的教育課題の解決に努める校長会を目指します。

下野市

広木 俊夫
下野市立緑小学校

旧石橋・国分寺・南河内町が合併して十一年。下野市として連携を深めてきました。今後も情報交換等を密にし教育課題の解決に努める校長会を目指します。

小山市

長谷部正和
小山市立旭小学校

今年度、義務教育学校誕生により三校減の二十四校となりましたが、「役に立つ校長会」を目指し、連携を深め、研修に意欲的に取り組んでいきます。

栃木市

前原 美彦
栃木市立栃木第五小学校

本市では、義務教育九年を見通し、「ふるさとの風土ではぐくむ」小中一貫教育を進めています。小中の枠を越え、同僚性を発揮する校長会を目指します。

塩谷

宇野 昌男
さくら市立南小学校

地区内二十四校の小学校

長が、①チャンス ②チャレンジ ③チェンジをモットーに、今日的教育課題の解決に向けて「邁進・実践する」校長会を目指していきます。

那須

渡部 吉晴
大田原市立市野沢小学校

那須地区三市町校長会との連携のもと、会員相互の情報交換を密に研修を深め、時代にふさわしい教育課題の解決に取り組む校長会を目指します。

南那須

吉澤 卓
那須烏山市立七合小学校

小規模地区の強みを生かし、九名の会員の共通理解と連携・協働のもと、地域や今日の課題の解決に向けて、しなやかなで前向きな校長会を目指します。

佐野市

白澤 嘉宏
佐野市立田沼小学校

二十六校の小学校長が、学びの連続性・系統性を意識し、知のつながりを重視しながら、佐野市小中一貫教育等の教育課題に一致団結し取り組んでまいります。

足利市

新井 功
足利市立東山小学校

「足利市の教育目標」具現化のため、生涯学習の立場に立った小学校教育の充実に向け、校長自らの資質向上に努める校長会を目指します。

平成二十九年
役員一覽

会長 高橋 正彦(宇戸祭)
副会長 福田 順一(宇・錦)

書記 高橋 英史
大島 秀雄(佐夫伏)
広木 俊夫(下・緑)

會計 小曾戸典子
赤上 純子(宇・桜)
前原 美彦(栃・栃木第五)

會計監査 青木 誠
浪花 寛(宇・昭和)
池田 輝美(上・今市第三)

永井 弘美(小・小山城北)
大橋 涉(塩・高根沢町立東)
(下・羽生田)

専門部
活動方針

総務部

部長 君島 悦夫
字・石井小学校

一 主題

栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

- ・ 本会の事業推進及び連絡調整
- ・ 教育懇談会等による対策活動の推進
- ・ 各部会に属さない必要事項の処理

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付等

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案書作成と提出

(小中学校長会で作成、中学校が取りまとめ)

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理

(六) 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会参加予定(本県の実情等の発表)

研修部

部長 吉成 隆志
字・東小学校

一 主題

新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進

二 活動方針

全連小大会主題と県小学校長会の基本目標に基づき、次の活動を推進する。

三 活動目標・内容

(一) 各地区の研修計画に基づく全員参加による研修の充実と推進

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力

・ 第六十九回全連小佐賀大会への参加

・ 第六十九回関プロ神奈川大会の分散会での提案(下野・下都賀・足利地区)

・ 第六十回中央研究大会の実施(研究発表と講演)

(三) 研修記録「第五十七号」の編集・発行

調査部

部長 久保田慶一
字・平石北小学校

一 主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての調査と、学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動の状況を調査し、学校経営上の諸課題解決のための資料として提供する。

(一) 学力向上の取組状況について(二年度)

(二) 小中連携の取組と実施状況について(二年度)

※この二点について、七月上旬から中旬に調査のためのアンケートをメールで送付いたします。

期限までに各地区調査部長へ回答くださいますようお願いいたします。調査の結果は、報告書にまとめると共に県校長会ホームページに掲載しますので、各校の教育活動改善の資料としてご活用ください。

厚生部

部長 青木 孝夫
字・西が岡小学校

一 主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

会員の福利厚生に関する各種事業を推進する。

(一) 学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実

(二) 教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望

(三) 栃木県小中学校長会慶弔規程に基づく、会員の慶弔に関する事業及び会計業務

※平成二十九年度は、中学校長会の慶弔会計が県小中学校長会慶弔の会計を担当する。

今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長 倉田 孝明
字・陽光小学校

一 主題

県小学校長会の活動目標の具現化にかかわる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長が今日的課題や当面する学校経営上の諸問題に取り組む際の情報を提供する。

(一) 校長会報の年二回発行(七月・二月)

・ 特色ある学校づくり
・ 豊かな心を育てる学校経営

・ 県校長会研修の取組

・ 県教育委員会からの情報

・ 全連小の動向・情報

・ 心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力(機関紙「小学校時報」など)

(三) 県校長会のホームページの運営・管理



主張 チーム学校とマネジメント

栃木県小学校長会副会長 福田 順一



「中学校教諭六割が過労死レベル」月八十時間超相当の残業」これは、四月二十八日付けネットニュースの見出しである。文部科学省の「二〇一六年度の公立小中学校教員の勤務実態調査（全国の総中学校各四百校抽出）」の速報値の公表を受けての記事である。

記事によると、教員の平日一日当たりの平均勤務時間は小学校で十一時間十五分、中学校で十一時間三十二分となっている。

そして、小学校教員の約三割、中学校教員の約六割が、週二十時間以上残業しており、この状況は、厚生労働省が過労死の労災認定の目安としている月八十時間労働に相当するとしている。

近年、学校教育の質的な充実に対する社会的要請の高まりや、複雑化する子どもたちの状況、保護者の経済格差による学びの機会の違い、教員が授業に専念することができない状況の出現など、学校は

多くの課題を抱えている。それでも教員は子どもたちのために思い、教材研究をし、授業準備等に余念がない。その結果、必然的に学校に

いる時間も長くなる。日本の教育の良さは教員が児童・生徒指導を含め、多面的に関わりながら教育活動を行い成果を上げてきたことにある。そして保護者や教員本人もそれを是認してきた文化がある。しかし、そのことが業務の拡大を招いているのは周知のところである。

「チーム学校」は、教員が授業等に専念し、良質な教育活動を展開することで教育の質の保証をねらっている。生まれ育った環境に左右されず、すべての子ども達も夢と希望をもって成長していけるようにすることである。

これから校長には、多様な専門性をもったスタッフを集めて学校全体を効果的に運営する、総合的なマネジメント力が求められている。



主張 本質を見極め、方向性を示す

栃木県小学校長会副会長 渡部 吉晴



昨年度末、新学習指導要領が告示され、「前文」には、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成し、社会に開かれた教育課程を重視する

とした、改訂の方向性が示されています。今、校長には、その理念をしっかりと読み解き、職員に対して、これから取り組む教育活動について方向性を示し、適正な価値付け・意義付けをしていくことが重要であると考えます。そのためにも、校長自身が課題意識を高くもち、平成三十二年度の全面実施に向けて、どれだけの準備ができるかが求められているものと思います。

一方、どのような教育制度や施策が示されても、行きつくところは、やはり「教育は人なり」であります。組織経営の原則の一つに、「人は本来他人の指示命令で動くのではなく、人はおかれた状況の理解と納得で動く」との言葉があります。このことから校長は教

育の本質（不易）をしっかりと見据えながら改革全体の方向性を見極め、確かな信念を持って積極的に職員をリードしていかなくてはなりません。

また、「マネジメントに適否はあっても、正誤はない」との言葉もあります。日々の教育活動のマネジメントには、いつでもどこでも通用する唯一最善の方法が存在するわけではありません。その場その時の状況において、常に「一般解」ではなく、「特殊解」そして「納得解」を模索しなければなりません。

現在、学校を取り巻く課題は、かつてないほど大きく、多岐にわたっており、個々の校長が一人で悩み考えているだけでは解決できないことも多々あります。校長会としての組織力は、「情報の集約力」でもあると思います。校長同士が知恵を出し合い、冷静に物事を捉えながら、子どもたちの「生きる力」の育成を目指し、正に「万里一空」（目的・目標に向かってやるべきことを見失わず励み続ける意）の心でたゆまぬ努力をしていきたいと考えます。

豊かな心をもち 輝いて生きる子どもたちの育成を目指す学校経営

ふるさと網戸に愛着をもち、未来を切り拓く子の育成

小山市立網戸小学校 堀 千尋

小山市の南西部、思川と与良川の間に位置する。菜の花が川土手を黄色に染める春、風になびく麦

秋の初夏、稲穂垂れ黄金色に輝く実りの秋、雪をいただく富士山のその堂々たる姿に感動する冬晴れの日。四季折々の美しい田園地帯に建つ学び舎で四十四名の網戸つ子が学んでいる。開校百四十四年という歴史の中で、「地域と共にある学校」として、地域に見守られながら、脈々と受け継がれてきた「網戸の教育」、その一端をご紹介します。

一 自律的な個と望ましい集団を育成する「全校児童活動」

コンパクトに動ける小規模校のよさを生かし、縦割り班による全校児童活動を計画的に実施しています。六年生を司会として全員が参加する「全校児童会議」などを通して児童の自治能力を高めます。また、春に実施する「全校歩き遠足」は、体力・気力の増進や自主性、そして、高学年生のリーダーシップを育んでいます。春の息吹を感じるふるさとの豊かな自然の中で、元気に遊ぶ子らの笑顔

が溢れます。さりげなく下級生を気遣う高学年生の姿にも成長を感じます。

二 多様な体験活動が育む豊かな心

豊かな心

本校では、地域指導者等外部講師の活用を通して、小規模校ならではの多様な体験活動を展開しています。小規模特認校の広告塔にもなっている「わくわく夢教室」では、お雛子、相撲をはじめ、市の伝統工芸である間々田紐づくりや藍染め、渡良瀬遊水地を学びの場とする野鳥観察、正月飾り作り、サッカー教室、クリスマスコンサート、おもしろ科学ショーなどを年十五回実施しています。ほかにも、博物館や県環境課、市健康推進課等多くの関係機関と連携した魅力ある体験活動を展開しており、児童の豊かな心とたくましく生きる力の育成につながっています。



春の全校歩き遠足

えがお小学校大作戦「くみんなが笑顔の学校」

那須烏山市立江川小学校 鈴木 厚子

江川小学校は、那須烏山市の北西部にあります。昨年四月に「輝葉台」から校舎を移転し、鮮やかな山吹色と浅葱色の柱が目印です。また、本市は昨年「烏山の山あげ行事」がユネスコ無形文化遺産に登録され、日本初の蓄電池駆動電車アキウムが走っています。

本校は、「みんなが笑顔の学校」をスローガンに掲げ、学校や家庭、地域が連携・協働して「えがお小学校大作戦」に取り組んでいます。「えがお」を大切に行っている学校は他にもあるかと思いますが、校名からしても「えがわ（お）小学校」ですから、このブランド力は本校が一番だと自負しています。

児童会を中心に、合言葉「えがおと笑顔で みんななかよし」を考えたシンボルマークのコンクールを行って優秀作品を何点か選びました。その中から、PTA役員に最優秀賞を選出していただきました。こうして出来上がった横断幕を、体育館や多目的ホール、校門脇の交差点のところに掲示しました。これらは、学校と家庭、地域

の協働による成果物の一つです。また、年度始めには学校教育目標、学校歴、日課表が入ったカレンダーを各家庭に配付しています。その中に、みんなが笑顔で生活するための約束事を親子で話し合っ

て記入するスペースを設け、家庭の見えるところに貼って活用していただけるようにしています。「笑顔」には、不思議な力があります。相手への最高の贈り物であり、コミュニケーションツールでもあります。勇気の源でもあります。いつも笑顔でいることは大変なことです。笑顔でばかりはいられませんが、泣きたいことも悲しいこともあります。でも、子どもたちには、思い切り泣いた後にはまた笑顔を取り戻してほしいと願っています。笑顔でいようと思うこと、そのものに大きな意味があると思います。と日々伝え続けています。



「えがお小学校」大作戦
～みんなが笑顔の学校～
えがおと笑顔で みんななかよし、みんなが
那須烏山市立江川小学校



特色ある学校づくり

地域とともにある学校を目指して

下野市立細谷小学校

須藤 克己

本校は下野市の北西部、壬生町と隣接する農村地区にある児童数四十四名の小さな学校です。市の小規模特認校に指定され、学区外からも八名の児童が通っています。学校経営方針の第一に掲げているのは、「学校と家庭、地域がともに連携し、小規模校のよさを生かした特色ある学校づくりに努める」ことです。

地域は自然環境・社会環境ともに恵まれており、総合的な学習の時間の教材となる「人・もの・こと」が充実しています。例年、農家の方々のご協力を得て、全校児童で体験農園活動やいちご狩り、梨狩りを行っています。楽しいだけでなく終わらないよう、その方々の熱い思いにふれながら地域を誇りに思える心を育てる学習や、自分の生き方につなげられるような学習を展開しています。また、地域の神社を舞台に太々神楽を児童も一緒に演じています。また、地域の神社を舞台に太々神楽を児童も一緒に演じています。また、地域の神社を舞台に太々神楽を児童も一緒に演じています。

ます。そうなれば、地域の伝統や文化、その継承に力を注いでいる人たちの学習がさらに充実できるので期待しているところです。この他にも、本校ではかんぴょう農家での体験学習や老人福祉施設・保育園の訪問等、小規模校のメリットを生かした、児童一人一人に活躍の場を与えられる特色ある教育活動を行っています。

新学習指導要領が目指す教育課程改善の基本的な方向性の中で「社会に開かれた教育課程」が示されました。児童が社会に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくための資質・能力が育てられるよう、まずは学校と地域が目的を共有し、連携していかななくてはなりません。今後、総合的な学習の時間をはじめ、学校の特徴を最大限に生かし、教育活動を展開していきたいと思いたいと思います。



全校児童によるいちご狩り

ふるさとPRプロジェクト

益子町立田野小学校

高木 達

本校は、益子町南部に位置し、緑豊かな山林や畑、水田など自然にたいへん恵まれた環境の中にあります。また、学区に、歴史や伝統のある文化財等の施設や益子町南運動公園等の公共の施設がたくさんあることや保護者や地域の方の教育に対する関心も高いことなどから、地域を生かした総合的な学習の実践を行ってきました。

「道の駅ましこ」がオープンに向けて準備が進められていました。そこで、地産地消を推進していくために自分たちにもできることではないかと考え、地元の方や役場の方等にさらに取材活動をし、地産地消の大切さや農家の苦労や願いを調べ、「道の駅ましこ」に訪れる方や地元の人に「地

産地消のよさや益子町のよさ」を発信することにしました。子どもたちは、野菜や果物を生産している農家の方や給食センターの栄養教諭等の取材活動をおして、地産地消の大切さを改めて確認し、食への感心や地産地消へ貢献しようとする意識が高まってきました。

秋に行われた「道の駅ましこ」のプレオープンでは、益子を訪れる観光客の方に益子のよさをまとめたリーフレットを配布し紹介したり、総合的な学習の時間の発表会では、保護者や地域の方に、地産地消の協力を呼びかけたりもしました。この様な活動をとおして、郷土を愛する心も育っていると感じます。今後、地域の教育力を生かし、地域の子に目を向けた学習を推進していきたいと思いたいと思います。



農家の方の説明に真剣に耳を傾ける子どもたち


 栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長

小貫 敬子

本会は、県内公立小・中学校、義務教育学校の女性校長と副校長・教頭で組織されています。今年度は、校長九十三名と教頭（副校長）百六十七名、計二百六十名が会員です。

第一回目の研修は、五月に栃木県教育委員会学校教育課主幹柳田伸二様をお迎えし、「次期学習指導要領を踏まえた学校経営」というテーマでご講話をいただき、社会が目まぐるしく変化する中、子どもたちの知識や理解の質を高めるための学校経営はいかに在るべきかを改めて考えさせられました。

また、七月には関東地区公立小・中学校女性校長会研修会栃木大会の開催が予定されています。今回は栃木県女性校長教頭会第二回研修会と合わせて、作家・クレヨンハウス主宰である落合恵子氏を講師にお迎えし、「子どもと向き合うということ……子どもから教わったこと」というテーマで講演を予定しています。

今年度も研鑽に励み、積極的に活動をしていきたいと思えます。


 栃の葉

 「新学習指導要領で求められる
資質能力の育成に向けて」

栃木県教育委員会事務局 学校教育課

平成二十九年三月三十一日に新学習指導要領が告示されたのは御案内の通りです。

今回の学習指導要領の改訂については、その検討段階から「カリキュラムマネジメント」、「アクティブ・ラーニング」など多くのカタカナがキーワードとして聞こえてきました。カタカナとは不思議な力を持つているもので、何か新しいことが示されたように捉えてしまいがちです。しかし、今回告示された内容をひもといいてみると、これまで重要とされていたことは変わらず重要であり、現行の学習指導要領の実施の中で課題となっていたことを解決するための手立てとして前出のキーワードが示されていると理解できます。新学習指導要領では「何ができるようになるか」という資質能力の育成に主眼が置かれています。教師が教えるべき内容が示されている「学習指導要領」を児童生徒に自分から進んで学びたいと思わせるような「学習指導要領」にしていくことが我々の使命だと考えています。

 平成二十九年
度

関ブ口理事会だより

栃木県小学校長会副会長

福田 順一

五月十三日（金）さいたま市「ブリランテ武蔵野」で、第一回理事会が以下のように開催されました。

○会長あいさつ

○協議

- ・平成二十八年度会務報告、決算会計監査報告

- ・平成二十九年年度役員選出

- ・平成二十九年年度事業計画案、予算案

- ・第六十九回神奈川大会運営要領・宣言文案等

- ・提案分科会

- ◆第三分科会（下野）

- ◆第七分科会（下都賀）

- ◆第十二分科会（足利）

- ・第七十回長野大会

- 平成三十年六月七、八日長野市

- 芸術館他

- ・提案分科会

- ◆経営・評価（宇都宮・上三川）

- ◆国際理解（上都賀）

○情報交換

- ・時数増加への対応

- ・組織（政令市と県との関係）

- ・児童と向き合う時間の確保

- ・人事異動と校長会の関わり

「全国連合小学校長会

第六十九回総会から」

栃木県小学校長会長

高橋 正彦

五月二十四日、東京虎ノ門ニッショーホールにて全連小事務、代議員約六百名が参加し、義家弘介文科省副大臣はじめ多数の来賓をお迎えしての総会、文科省の行政説明を中心とした研修会が開催された。

総会では、種村明頼新会長から「校長は自らの使命を自覚し、未来を見据え、創意ある展望と計画のもと、確かな実行力をもって信頼される学校づくりに努めなければならぬ」との力強い決意表明があった。義家文科省副大臣からは、教職は崇高な職業であり若者が教職を目指すよう文科省としても業務や定数の改善に全力をあげて取り組むとの挨拶があった。その後、各部の報告（後日配付）が行われた。

研修では、白間審議官より「当面する初等教育の諸問題」についての講話、各課長より新学習指導要領について、教職員定数・業務の改善について、いじめの防止・不登校等への対応、情報教育・プログラミング教育について、オリンピック・パラリンピック教育についての説明及び協力要請があった。

話題の広場

地域と学校で伝統を受け継ぐ

足利市立葉鹿小学校 慶野 八郎

葉鹿小がある地域は歴史が古く、藤原京に渡良瀬川の鮎を献上したという木簡記録が残っているほどだ。他にも①江戸時代からの地域にある三台の山車は、歌舞伎等ができる大きな物で、県内でも稀な物。今年の夏修復完了し、子供歌舞伎が行われる。②葉鹿小校歌は、有名な「下總皖一」氏作曲で、制定以来九十年弱の歴史があり、親子三代同一校歌を歌えるという貴重なもの。地域は、この校歌を顕彰しようと盛り上がっている。

これらのことで「録音させてほしい」「歌舞伎メンバーを募ってほしい」「子どもに講話をしたい」等、地域活性のためにも古い物を継承していきたいという地元の方の熱意や依頼を感じ、全面協力しなければならぬと思っている。

将来、地域の人材として活躍する子どもたちに、地域の素晴らしさを伝えていく役目を学校が果たせるということは、葉鹿小学校としても、とても喜ばしいことである。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長

池田 昌司

県小学校長会は、各地区小学校長会で組織する連合機関であり、その主体的活動の充実強化を図るために運営拠出金を設定し、運営拠出金の保管と管理を図るために運営拠出金委員会を設けています。本会費は、新会員の皆様に拠出してはいますが、県からの補助金カット、市町からの法令外負担金の減額に伴う本会計への補助もあり、基金造成は年々、困難な状況になってきております。

昨年度から、平成三十三年年度の関ブロ小学校長会栃木大会に向けて準備資金や開催資金を用意するために、また、法令外負担金確保のために、本会研修費等への補助と各地区研修費には補助金は支出せず、積み立てていくことになりました。

各地区の会員の皆様には、運営拠出金の状況等をご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。



県小学校長会事務局だより

事務局長

野中 政治

五月十八日の定期総会(代議員制)では、平成二十八年年度事業報告・決算報告・平成二十九年年度役員報告・活動目標・事業計画・予算案審議があり、承認されました。新年度の方向性が決定し、小学校長会の活動が順調にスタートしました。

また、学校の統廃合による会員数の減少・研究大会運営基金や全連小の助成の停止による収入の減少に対応するため、二月の臨時総会で、本年度からの会費を改定しました。今後も支出の見直しを図り、円滑な小学校長会活動ができるように事務局も努めて参りたいと思います。

今年度は、関ブロ大会が神奈川県で、全連小大会が佐賀で開催されます。なお、関ブロ大会で、下都賀・下野・足利地区が発表します。

栃木県小学校長会事務局は、今年度も野中事務局長と高柳事務局員です。勤務は九時～十六時(昼休み一時間)です。

不在の場合は留守電設定にしておきますので用件をお話ください。

編集後記

校長室の南窓より唐沢の山々を望む。「山笑う」から「山滴る」へと、その風情が移り変わっていくのを楽しむ。

今や唐沢山全体が蒼翠にして雄々しく、平安の昔、ムカデ退治の藤原秀郷公の姿を彷彿させる。

ここ一帯の丘陵は昭和三十年に県立自然公園に、唐沢山城跡は平成二十六年に国の史跡に指定された。

今年の十一月二十五日、二十六日の二日間にあたり、「全国山城サミット」が佐野市で開催される。その成功を心から祈るとともに、故郷の歴史を温めるのも今が旬ではないかと思う。

佐野市立栃本小学校

佐藤 信弘

